

自然系博物館の現状と課題

平成 20 年 5 月 13 日
国立科学博物館 小川義和

1. 博物館とは

- (1) 定義
- (2) 自然系博物館とは
自然史系＋理工系の博物館＝自然史博物館、産業博物館、科学館、天文
関係、植物園、動物園、水族館など

2. 自然系博物館を取り巻く環境の変化と課題

- (1) 博物館が抱える課題（自己評価）
財政的な課題、IT 等の導入、展示の更新、設備の老朽化、職員の不足等
- (2) 博物館数と利用者数
博物館数の増加と利用者数の伸び悩み
- (3) 国民の自然系博物館に対する認知度と利用頻度
- (4) 人材をめぐる問題点
- (5) 自然系博物館の教育普及活動の状況と学校との連携
- (6) 高度化する科学技術と国民の科学に対する意識と理解の状況
科学技術に対する意識と理解度（PISA, TIMMS, 成人の意識調査）
世界科学会議(1999)「社会の中の科学、社会のための科学」
- (7) 自然環境の変化と自然系博物館の役割
人間活動の自然環境への影響大、自然体験不足、持続可能な社会の実現
自然環境の記録と将来のための資料の蓄積
- (8) 博物館に対する新たな需要と存在意義の主張
日本：対話と連携による博物館力の強化
米国：博物館の教育機能を公共サービスの中心に
英国：学習資源としての博物館
- (9) 行財政改革の進展
説明責任の必要性和透明性の確保、効率的・自主的運営、民間委託

- (10) 「知識基盤社会」「知の循環型社会」の構築
知の創生と社会還元

3. 独立行政法人の特徴

- (1) 独立行政法人の背景
NPM (New Public Management) による行政部門の効率化・活性化
- (2) 独立行政法人の特徴

4. 国立科学博物館の概要

- (1) 設置目的と業務の範囲
- (2) 沿革
- (3) 機構と組織
- (4) 目的
自然科学の振興 (知の創造)
社会教育の振興 (知の社会還元・共有)
- (5) 中期目標・計画 (平成 18 年度～22 年度)
 - (ア) 地球と生命の歴史、科学技術の歴史の解明を通じた社会的有用性の高い自然史体系・科学技術史体系の構築を目指す調査研究事業
 - (イ) ナショナルコレクションの体系的構築と人類共有の財産として将来にわたり継承するための標本資料収集・保管事業
 - (ウ) 科博の資源と社会の様々なセクターとの協働により、人々の科学リテラシーの向上に資する展示・学習支援事業

5. 21 世紀を豊かに生きるために

- (1) 理科教育、科学教育の課題
科学リテラシーの必要性
- (2) 現代社会における科学の在り方
サイエンスコミュニケーションの必要性